

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 23 日現在

機関番号：34314

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04280

研究課題名(和文) 社会小児科学の視点からみた子どもの貧困解決

研究課題名(英文) The solution of child poverty from the social paediatric viewpoint

研究代表者

武内 一 (Takeuchi, Hajime)

佛教大学・社会福祉学部・教授

研究者番号：30552806

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：国際比較研究「子どもの貧困と政策 対応に関する3カ国比較研究 -日本、スウェーデンそしてイギリス)」に関しては、スウェーデン及びイギリスの2名の研究協力者とともに研究を進め、英文での公開に向けて分析は進んでいるが、論文提出には至っていない。

もう一つ「子育て世代の生活実情調査」で、調査は2019年6月から7月にかけて全国規模で実施され、全国45都道府県在住者から回答を得た。有効回答総数は2398を得て調査は終了した。貧困の有無から見た一部のデータ分析とその考察は終了したが、多面的な結果の分析作業は現在も継続している。この間、学会及び論文でのこれら取り組みに関わる報告は実施してきた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

子どもの貧困問題を解決する場合、様々な立場を超えて同意できる論理をどう構築するかが、3カ国比較の大きな目標であった。3カ国のデータ分析に基づき各々の国の政策を評価し、ケイパビリティの最適化がすべての子どもの普遍的権利であるとの視点で、問題解決の方向性を示した。高所得国における貧困解決のこの方向性は、新しい視点だと考える。

一方、子どもの貧困の実情を全国調査に基づいて明らかにするのが、もう一つの調査に基づく現状の分析であった。相対的貧困が否かで2群間を分析するだけ出なく、母子世帯の特徴、あるいは剥奪指標からみた貧困の捉え方など、従来の貧困研究の枠組みを越え、国際比較できる情報を収集できた。

研究成果の概要(英文)：Regarding the international comparative study "Towards optimising children's capability and tackling child poverty in high-income countries; through the cases of Japan, UK and Sweden" was conducted with two research collaborators in Sweden and the United Kingdom, and the analysis has been progressing to publish in English, but the article has not been submitted. Another survey, "Study of child-rearing families" was conducted from June to July 2019 on a nationwide scale, with responses from 45 prefectures. The survey was completed with a total of 2,398 valid responses. Although data analysis and assessment based on the groups of poverty and non-poverty have been completed. However, other analysis works of multifaceted results are still ongoing. During these years, we have made reports on these efforts at academic conferences and papers.

研究分野：子どもの貧困および子どもの権利

キーワード：子どもの貧困 ケイパビリティ 子どもの権利 社会小児科学 国際比較 質問紙調査 社会経済的地位

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

わが国では子どもの貧困は、相対的貧困率の公表を機会にその割合の高さが注目されるようになった。そうした状況を受け、「子どもの貧困対策推進に関する法律」が、2014年1月に施行された。その中で、子どもへの教育・生活・就労・経済的支援施策は、生まれ育った環境によって左右されない社会を実現すると謳い、子どもの貧困対策に関する大綱を定めると明記した。同年8月の大綱では、「指標を設定しその改善に取り組む」とし、その指標として、生活保護世帯、児童養護施設、一人親家庭の子ども進学率や就職率と、子どもの貧困率、子どもがいる大人一人世帯の貧困率が示されている。しかし、こうした指標をどの時点でどのように改善するのかの目標が明確ではない。

また、生活保護受給世帯が、対象世帯の2割にも満たないとの試算があり、相対的貧困家庭に暮らす上記の3グループ以外の多数の子どもたちへの対策とその効果は、この大綱から見えてこない。生活保護基準以下で暮らしながら、社会保障制度の枠組みから漏れている大多数の貧困家庭の子どもたちへの支援政策は、先送りされていると言える。

医療では、エビデンス(事実)が重視され、それはEBMと略されるが、医療分野からこうした経済背景に踏み込んだ臨床研究は、まだまだ少ない。

## 2. 研究の目的

本研究は、次の2点を目的とするものであった。

1. わが国の子どもの貧困を、医療現場からの情報に基づき社会医学の視点で検討する。
2. 日本の子どもの貧困の現状を、社会医学的視点からスウェーデン、イギリス、韓国と比較することで、子どもの貧困対策に生かせる学問的報告書を作成する。

医療からみた子どもの心身の状態と家族の生活実態に関して、各医療機関を受診した患儿とその家族から統計的、記述的情報の収集を行い、学際的かつ国際的なチーム編成による多様な視点からの検討を加え、従来の我が国の子どもの貧困の現状評価と合わせて、今後の子どもの貧困解決へつなげる提案を行うまでを目的とした。

## 3. 研究の方法

本研究は、医療機関から子どもの貧困に関する調査を実施し、我が国の子どもの貧困の分析を進める。従来の研究では、医療機関において世帯収入に基づいた子どもの相対的貧困を検討したものは、我々の2014年度調査以外に先行研究はなく、子どもの貧困を医療から研究する点で、従来の研究にはない視点をもつ。つまり、(1)医療現場の調査に基づくリアルな子どもの貧困の状況を、研究の第一の柱にした。

また、この研究の1年目には、統括する武内が、スウェーデンにて社会小児科学および小児公衆衛生の専門家と研究活動できる環境にあったため、海外との比較検討をおこなうことで、貧困解決への新たな視点を本研究に持ち込めることが期待されると考えた。(2)日本の子どもの貧困の対応を、海外先進諸国との対比で海外専門家が検討した。

そうした点を踏まえ、(1)医療機関が中心となった、家族収入に基づく臨床研究は、過去我々の先行研究以外日本にはなことから、(2)国内の現場の情報を海外の研究者と共有し、先進諸国との対比で、子どもの貧困を検討を行った。この2点は独創的であり、この研究を通じて、子どもの貧困対策に生かせる新たな提言を行うことが可能になると考えた。

## 4. 研究成果

今回の研究基金を利用して、2017年4月から2018年3月までは、ウメオ大学医学部疫学とグローバルヘルスのユニットにおいて、同施設の Anneli Ivarsson 教授とイギリス ダービ大学 Sung-Hee Lee 講師の2名との共同研究を進めてきた。

研究課題に関する進展状況は、ヨーロッパ小児感染症学会(2017年5月)、国際社会小児科学小児保健学会(2017年9月)、ヨーロッパ公衆衛生学会(2017年10月)、大阪小児科学会(2018年6月)、京都小児科医会(2018年6月)、日本社会医学会(2018年7月)、日本外来小児科学会(2018年8月)、国際社会小児科学小児保健学会(2018年9月)、近畿外来小児科学研究会(2018年11月)、滋賀小児科医会(2019年2月)、近畿小児科学会(2019年3月)、日本小児科学会(2019年4月)、近畿外来小児科学研究会(2019年6月)、日本社会医学会(2019年8月 シンポジウム企画)、日本外来小児科学会(2019年8月)、国際社会小児科学小児保健学会(2019年9月)、「東アジアにおけるケアと共生」総括国際シンポジウム「東アジア家族主義と貧困」(2019年12月)、Academic Space of Qualitative Research in Umeå University(2020年2月)において、今回の研究にかかわる演題を発表した(詳細は演題発表参照)。

さらに、2014年に実施した本調査の足がかりとなる子どもの貧困に関する全国の医療機関をベースとした患者家族への3つのアンケート調査のまとめは、すでに国内学会の学術誌の誌上で公開されているが、英文での論文化を進めており、現在研究協力者で指導的役割を担っている Ivarsson 教授から最終的な科学的校閲を受け、韓国保健社会研究院(KIHASA)の季刊学術誌の誌上で公開予定である。

2017年度スウェーデン滞在中に進めていた新たな国際比較研究となる「Towards optimising children's capability and tackling child poverty in highly income countries – through the cases of Japan, UK and Sweden (高所得国における子どものケイパビリティ – 最適化と子どもの貧困への取り組み - 日本、英国、スウェーデンの比較から)」は、海外の上記2名の研究協力者と共にまとめ、2020年10月開催予定の世界およびヨーロッパ公衆衛生学会へ演題をエントリーすると共に、論文化に向けて骨子を確認し、3か国の統計データの整理を終えて考察を書き上げるべく分担して作業を進めている。2020年度中には英文論文として学術研究誌上で公開していく予定としている。この論文の意義は、第一に客観性のある統計データを3か国で比較し、そのデータの背景にある各国の政策の違いを考察している点にあり、第二にそれらの事実が、どのように子どもたちのケイパビリティの最適化に関係しているのかを論じている点にある。それは促進因子にも阻害因子にもなるため、その二面性に触れて現状を論じる必要があると考え、考察の文章化を行なっている。子どもの貧困を、単に相対的貧困の解消に焦点化するのではなく、子どもの「ありたい」「なりたい」思いを最大限発揮できる社会の構築、そのためにはケイパビリティの最適化がその鍵である点を論じたいと考えている。

もう一つの研究課題は、全国の医療機関の共同組織(医療生協および友の会組織)を構成する家族を対象としての国際比較可能な項目を加えた過去全国規模で取り組まれていない質問紙調査に関するものである。紙媒体での実施ではなくスマートフォンでQRコードを読み込み、設問に答えていく方法を取り入れることとした。こういった手段での調査の計画に至ったのは「スマートフォンの普及状況は経済的な背景に左右されない」との過去の自治体における生活調査に基づくエビデンスにある。新たな取り組みであることから、QRコード作成後に倫理審査を依頼した実施の主体となる医療機関の加盟する全国組織における審査終了までに時間を要したこと、各都道府県の医療機関あるいは医療法人を統括する広域

担当の事務部門へ調査への協力依頼するにあたって47都道府県すべてへの個別の対応が必要となったことなどの影響で、調査実施のための準備が大幅に遅れ、2019年6月から7月にかけて調査が実施された。質問項目の作成に際しては、貧困状況や主観的な基準を用いて論じるだけでなく、剥奪指標を用いた国際比較を含む多面的な貧困概念に言及し、その解決への方向性を論じることができるよう、質問内容の作成に時間をかけた。

この調査を全国の医療機関の共同組織に呼びかけて実施した結果、45都道府県から2,518家族より回答を得ることができ、その中の有効回答総数は2,398(95%)であった。質問紙は、全調査対象共通用、3歳から就学前児の親用、小中学生の親用、小学校5年生以上の子ども本人用の4つの回答部分に分かれていた。すでに相対的貧困世帯と非貧困世帯の対比における全調査対象分の分析を完了し、その他の側面からの結果の分析に関しては、現在も継続して取り組んでいる。当初は、最初の学会発表の場を2020年3月に予定されていた近畿小児科学会として準備を終えていたが、新型コロナウイルス感染症(COVID19)に伴う学会の中止、延期が続いていることから、その他の学会を含め公表の場が未定のまま現在に至っている。

2017年度から2019年度にかけてのこれら研究活動とその成果の公開に関しては、学会などでの口演及びポスターによる報告(先述)だけではなく、学術誌あるいはその他出版物を通じて行っている。詳細は、別紙の論文リストを参照いただきたい。

このように、研究成果の現時点での報告は必ずしも十分なものとは言えないかもしれないが、多くの公開の場を利用して、可能な限り成果の還元は行ってきた。今後、主な研究テーマの最終的なまとめを1-2年かけて実施していくことで、科学研究費に見合う成果をさらに社会還元するよう努力を重ねたいと考えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 武内 一	4. 巻 15
2. 論文標題 子どもの貧困問題解決におけるケイパビリティ最適化の視点	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 佛教大学社会福祉学部論集	6. 最初と最後の頁 61-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Hajime Takeuchi	4. 巻 35
2. 論文標題 How can we move forward with the endorsement of the Budapest Declaration?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ISSOP e-bulletin	6. 最初と最後の頁 3-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Hajime Takeuchi	4. 巻 33
2. 論文標題 Disseminating the Budapest Declaration in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ISSOP e-bulletin	6. 最初と最後の頁 11-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 武内 一	4. 巻 122
2. 論文標題 外来小児科学会と共に歩んだ歴史を振り返り、社会小児科学の新たな地平の開拓を願う	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本小児科学会雑誌	6. 最初と最後の頁 709-719
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内 一	4. 巻 21
2. 論文標題 スウェーデンでの研究生生活はアドベンチャラス 第1回スウェーデンでの研究生生活が始まった	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 チャイルドヘルス	6. 最初と最後の頁 452-454
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内 一	4. 巻 21
2. 論文標題 スウェーデンでの研究生生活はアドベンチャラス 第2回スウェーデンでの一人暮らしはアドベンチャラス	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 チャイルドヘルス	6. 最初と最後の頁 538-540
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内 一	4. 巻 21
2. 論文標題 スウェーデンでの研究生生活はアドベンチャラス 第3回fikaの時間	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 チャイルドヘルス	6. 最初と最後の頁 620-622
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内 一	4. 巻 21
2. 論文標題 スウェーデンでの研究生生活はアドベンチャラス 第4回スウェーデンの休日	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 チャイルドヘルス	6. 最初と最後の頁 697-699
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内 一	4. 巻 21
2. 論文標題 スウェーデンでの研究生活はアドベンチャラス 第5回スウェーデンの食事	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 チャイルドヘルス	6. 最初と最後の頁 777-779
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内 一	4. 巻 21
2. 論文標題 スウェーデンでの研究生活はアドベンチャラス 第6回スウェーデンの福祉	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 チャイルドヘルス	6. 最初と最後の頁 862-864
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内 一	4. 巻 21
2. 論文標題 スウェーデンでの研究生活はアドベンチャラス 第7回女性やマイノリティの権利	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 チャイルドヘルス	6. 最初と最後の頁 943-945
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内 一	4. 巻 22
2. 論文標題 スウェーデンでの研究生活はアドベンチャラス 第8回ユースクリニック	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 チャイルドヘルス	6. 最初と最後の頁 62-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内 一	4. 巻 22
2. 論文標題 スウェーデンでの研究生活はアドベンチャラス 第9回移民受け入れと子どもの権利条約	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 チャイルドヘルス	6. 最初と最後の頁 138-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内 一	4. 巻 22
2. 論文標題 スウェーデンでの研究生活はアドベンチャラス 第10回子供の遊びと暮らし	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 チャイルドヘルス	6. 最初と最後の頁 224-226
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内 一	4. 巻 28-1
2. 論文標題 医療の現場における子どものQOLを考える	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 生存科学	6. 最初と最後の頁 31-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hajime Takeuchi	4. 巻 5
2. 論文標題 Child Poverty Addressed in Medical Articles Written in Japanese: Available on Medical Databases	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 佛教大学総合研究所共同研究成果報告論文集	6. 最初と最後の頁 169-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 武内 一、佐藤洋一、山口英里、和田 浩	4. 巻 5
2. 論文標題 子どもへの貧困の影響 -多施設共同での質問紙による3調査-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 佛教大学総合研究所共同研究成果報告論文集	6. 最初と最後の頁 173-182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口英里、和田 浩、佐藤洋一、武内 一	4. 巻 5
2. 論文標題 「貧困と子どもの健康」 新生児の社会経済的背景について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 佛教大学総合研究所共同研究成果報告論文集	6. 最初と最後の頁 183-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内 一、佐藤洋一、山口英里、和田 浩	4. 巻 5
2. 論文標題 入院診療における子育て世帯の社会経済的背景について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 佛教大学総合研究所共同研究成果報告論文集	6. 最初と最後の頁 189-195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤洋一、山口英里、和田 浩、武内 一	4. 巻 5
2. 論文標題 学童期の子どもへの貧困の影響	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 佛教大学総合研究所共同研究成果報告論文集	6. 最初と最後の頁 196-203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内 一、佐藤洋一、山口英里、和田 浩	4. 巻 5
2. 論文標題 世帯収入に基づく子どもの生活実態 -医療機関調査の続報-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 佛教大学総合研究所共同研究成果報告論文集	6. 最初と最後の頁 204-207
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内 一	4. 巻 5
2. 論文標題 子どもの貧困	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 佛教大学総合研究所共同研究成果報告論文集	6. 最初と最後の頁 209-237
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 武内 一、Anneli Ivarsson
2. 発表標題 子どもの健康と権利 -ケイパビリティーの視点から考える
3. 学会等名 第34回近畿外来小児科学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武内 一、Anneli Ivarsson
2. 発表標題 子どもの貧困問題解決におけるケイパビリティー最適化の視点
3. 学会等名 第32回近畿小児科学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武内 一
2. 発表標題 子どもの貧困 海外からみえる日本の問題
3. 学会等名 滋賀小児科医会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hajime Takeuchi
2. 発表標題 The Budapest Declaration of ISSOP 2017 - efforts to increase awareness in Japan
3. 学会等名 ISSOP annual meeting（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武内 一
2. 発表標題 スウェーデンで暮らして感じた幸せな人生とは スウェーデンの子どもたちは何を学んで大人になるのだろうか
3. 学会等名 山口県病児・病後児保育スタッフ研修事業（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武内 一
2. 発表標題 国際社会小児科学小児保健学会（ISSOP）ブダペスト宣言
3. 学会等名 第28回日本外来小児科学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武内 一
2. 発表標題 ブダペスト宣言 等学会の支持表明に国際社会が期待するもの
3. 学会等名 第59回日本社会学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武内 一
2. 発表標題 子どもの貧困 小児医療の現場でどう気づくか、どう支援するか 海外との比較
3. 学会等名 第29回日本小児科医会総会フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武内 一
2. 発表標題 子どもの貧困 海外比較からみえる日本の問題
3. 学会等名 第34回子どものこころと身体懇話会 京都小児科医会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hajime Takeuchi
2. 発表標題 Socioeconomic status based on income per capita -findings from Japan
3. 学会等名 2017 Annual Meeting of ISSOP（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hajime Takeuchi
2. 発表標題 Socioeconomic status based on household income -findings from japan
3. 学会等名 10th European Public Health Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----